

沼原湿原から

三斗小屋温泉



三斗小屋宿跡

このコースはかつて会津中街道と呼ばれ、参勤交代にも何度が使われた。宿駅のひとつ三斗小屋宿跡の石仏や常夜燈に往時が偲ばれる。また沼原湿原は春から秋まで美しい高山植物が咲き競い、花のジュータンさながらだ。

高山植物が咲き競う

沼原湿原

三斗小屋温泉へ行くには、いづつかのコースがあるが、沼原からのコースはほとんどが樹林帯を歩くことになる。尾根歩きのだいご味はないが、春から夏にかけての沼原は湿原性の高山植物が咲き競い、ハイカーの目を楽しませてくれる。また、かつて会津中街道の宿駅であった三斗小屋宿跡には、大日如来像や常夜燈などが並び、往時を偲ぶことができる。一度は歩いてみたいコースである。

J R東北本線黒磯駅から沼原まではタクシーを利用する。沼原駐車場から貯水池を左に見て北に向かう。林の中の平

交通 J R東北本線黒磯駅から沼原駐車場までタクシー利用
50分

問合せ先 J R黒磯駅 0287(62)0047 / 黒磯観光タクシィ 0287(62)1526 / 那須合同自動車タクシィ 0287(62)0001

歩行時間 3時間20分

コースタイム 沼原駐車場(20分) 沼原湿原(70分) 80分) 林道(30分) 25分) 三斗小屋宿(80分) 70分) 三斗小屋温泉

地形図 那須岳

三斗小屋温泉 単純泉 / 53度 / 胃腸病・痔疾・慢性湿疹などに適応

宿泊施設 大黒屋旅館 0287(63)2988

煙草屋旅館 0287(69)0882

照会 那須観光協会 0287(76)2619 / 黒磯観光協



沼原湿原

坦な道を少し行くと、左に曲がり下りになる。すぐに丁字路になり、右に伝説の子守石がある。左に行けば沼原湿原の回遊コースである。

沼原湿原は高山植物の宝庫で、ニッコウキスゲなどが自生している。春から夏にかけて、色とりどりの花を愛でることが出来る。時間が許すならひとまわりするとよい。

子守石から北に進めば休憩所とトイレがある。そこからも湿原への道がある。その先すぐに分岐があり、右は牛力

首方面への道である。左の三斗小屋宿方面に向かい5分ほどでまた分岐がある。左は先ほどの回遊コースなのでまっすぐ行く。「クマに注意」の看板があり、一人では心細くなるところだ。

「麦飯ヲ煮ルベシ」と怒鳴ったという麦飯坂

カラムツやダケケミの林を行くと左にお地藏さんがあり、分岐になっているがまっすぐ行く。暗い林をゆるく登って行くと下りになる。トチやミズナラの大木のあるあたりから急な下りになり、沢音が聞こえてくる。ここを麦飯坂まかといふ。麦飯坂とは変った名前である。板室からここまで来て、三斗小屋宿に向かつて大声で「麦飯を煮とけよ」と叫べば、着くころには麦飯が炊けていたという。それほどの距離があるということなのだろう。

水のない沢を渡り、しばらくしてまた同じ沢を横切る。



苦土川に架かる白湯橋

傾斜はだんだんゆるくなり、澄川、小澄川を渡ると左に苦土川の流れが見えてくる。

斜面から水の湧き出す道を行くと、右手に閉まったままの小屋がある。すぐに苦土川になり、石から石へ小さな橋が架かっている。硫黄分を含んだ御沢がすぐ上で合流しているせいか、水は少し白く濁って見える。

古い歴史を偲ばせる

三斗小屋宿跡

橋の少し下から山道に入ると5分ほどでジャリ道に出

会 / 0287(62)7155

アドバイス 那須連山には少数ではあるがツキノワグマが生息している。山は彼らのテリトリーであるからどこでも遭遇する可能性がある。鈴をつけるなり、十分注意されたい

苦土川（にがとがわ） 那珂川源流域の呼称は、従来「苦土川」とされてきたが、国土地理院発行二万五千分の一地形図は、一九九一年から「湯川」と表記されている。しかし、「湯川」は三斗小屋温泉から那珂川源流に合流するまでの川の呼称として使われてきた。本書では混乱を避けるために従来どおりの「苦土川」「湯川」を使用する

る。これは深山ダムから三斗小屋宿への林道である。シラカバの交じる雑木林をダラダラと登って行くと、左側に墓が見えてくる。

ここは三斗小屋温泉に生活する人たちや、かつて三斗小屋宿に住んでいた人たちの墓である。その中に戊辰戦死若干墓があり、このあたりがかつて戊辰戦争の戦場だったことが偲ばれる。

まもなく林が切れ、平らな道になり、三斗小屋宿に着く。林道の左側には堀が通り、そ

の堀沿いに石灯籠や、由来の刻まれた石碑が立っている。これらは三斗小屋宿が宿駅としての役割と同時に、白湯山信仰登山の基地として栄えたことを物語っている。

正面に流石山から大倉山の稜線を見ながら、三斗小屋温泉へ向かう。白湯山神社の跡を過ぎ、右に曲がって下ればすぐ苦土川に出る。林道はここで終わりになる。

那珂川の源流碑を通り、白湯橋を渡ると、那須地区の登山案内板がある。なお、三斗

小屋宿から苦土川沿いに大峠へ行く会津中街道も整備されたが、渡渉が二度ほどあるの
で注意されたい。

「七曲がり」を登り

三斗小屋温泉へ

カラマツ林を登り終わると、左にヒノキ林があり、すぐに雑木林に変わる。左の沢音を聞きながら行くと、やがて清水沢に出る。清冽な沢水が乾いた喉を潤す。なお少し先の湯川は飲用には適さないので、この清水沢を利用されたい。

清水沢を越し、もうひとつ向こうの湯川との間を登って行く。湯川を渡ると、道は斜面をジグザグに登って行く。七曲がりと呼ばれるこのジグザグ道を登り終えれば三斗小屋温泉である。最後のガンバリどころだ。

やがてダケカンバがめだつようになると大峠への分岐に出る。すぐ先の小さな沢を渡れば三斗小屋温泉である。

〔室井武雄〕

白湯山信仰（はくゆざんしんこう）一六七二年開基とされ、江戸後期にもっとも盛んとなった。御沢上流の御宝前ノ湯（白湯山）を奥の院として、月山（茶臼岳）、朝日岳を登拝した。第二次大戦ごろまでかなりの賑わいをみせたが、戦後衰退していった

アドバイス 清水沢ではうまい水が飲めるが、湯川は飲用に適さないので注意したい

戊辰戦争（ぼしんせんそう）一八六八年（慶應四・明治元戊辰の年）から翌年まで行われた新政府軍と旧幕府側との戦いの総称

帰路交通 ロープウェイ山麓駅から東野バスJR黒磯駅行
終点下車（65分）/JR黒磯駅
0287(62)0047/東野
バス黒磯出張所 0287(62)0858



三斗小屋宿から見た茶臼岳

